

令和2年度第74回栃木県芸術祭美術展審査結果（日本画部門）

○応募総数	36点	[	49点]	
○入賞点数	8点	[	9点]	
○入選点数	26点	[	35点]	* [ ] 内は昨年度

（審査寸評）

コロナ禍の先行きが見えない中で出品点数が減少となったが、出品された作品は個性あるテーマで色彩もよく、しっかりと描き込まれている。かつての日本画のテーマであった富士やさくらなどから脱してきた感がある。

○芸術祭賞「衣鉢」

白と赤の強弱ある背景の中に、周りの人々や家族のイメージを装飾性を交えて品のある作品にまとめている。

平成29年度第71回に続き二度目の芸術祭賞受賞。

○準芸術祭賞「十六夜」

画面の上下に月と思いを込めた人物を配置し、そのバランスの良さと装飾性が高く評価された。

○準芸術祭賞「蠢」

一本の白木蓮が散るまでの動く春をもみ箔を使って表現し、技術的にも見せ場がある作品になっている。

【入賞者名及び入賞作品名】

○芸術祭賞

えん どう さ おり  
遠 藤 沙 織 (足利市) 「衣鉢」

○準芸術祭賞

やま ぐち あきら  
山 口 昭 (宇都宮市) 「十六夜」

うす い ゆき え  
薄 井 幸 江 (宇都宮市) 「蠹」

○芸術祭奨励賞

みず の すみ こ  
水 野 澄 子 (那須塩原市) 「会津雪懐」

かめ やま あき よ  
亀 山 明 代 (真岡市) 「羽音」

にし はら みち こ  
西 原 道 子 (宇都宮市) 「明日葉」

なが たけ かず こ  
長 竹 和 子 (宇都宮市) 「初夏に薫る」

きの した だい き  
木 下 大 輝 (宇都宮市) 「獅子」

○U25賞

該当なし

令和2年度第74回栃木県芸術祭美術展審査結果（書道部門）

○応募総数	273点	[ 330点]	
○入賞点数	14点	[ 14点]	
○入選点数	212点	[ 190点]	* [ ]内は昨年度

（審査寸評）

本年はコロナ禍の影響大なる中の総合文化センターでの美術展となり、書作家の高齢化などが相まって出品数が大きく減少した。しかし作品には外出自粛・イベントの中止が聞かれる中、黙々と自らと向き合いながら、書作に励んでいる熱意ある姿勢が見られ、このような時だからこそ芸術活動・人間性の涵養が大切であるとあらためて思い、今回展の開催をまず評価したいと思う。

○芸術祭賞「允禧詩」

作品サイズ たて 250 cm よこ 70 cm

清朝の允禧の五言律詩を二尺八尺の画仙紙に行草体三行で書いている。自然な筆使いの中に気韻生動、潤滑が快いリズムを奏でて流動感あふれる作品となった。

紙面の余白が美しく芸術祭賞に相応しい作である。

○準芸術祭賞「極光」

作品サイズ たて 90 cm よこ 180 cm

空一面に千変万化するオーロラへの思いを「極光」の二字に込めたという。

筆力漲る書線と墨の潤濁が美しい対比を見せて、作者の思いが形となって出色の作となった。

○準芸術祭賞「能執無為 故能使衆為也」

作品サイズ たて 39 cm よこ 30 cm

環璽と呼ばれる円形印に呂氏春秋にみられる題名の十字を刻した。

周代金文の豊かな造形性を躍動させて確かな技術とセンスが光る優品である。

○U25賞「溶々漾々白鷗飛」

作品サイズ たて 39 cm よこ 30 cm

高校生の篆刻作品。溶・漾の重字を表現する高度な技法。用刀などのテクニックが光る。今後益々の精進を祈る研究熱心な作品である。

【入賞者名及び入賞作品名】

○芸術祭賞

うじ いえ しん こう  
氏 家 真 鴻 (栃木市) 「允禧詩」

○準芸術祭賞

おお ろい てん かく  
大 類 天 鶴 (宇都宮市) 「極光」

きた むら のぞみ (宇都宮市) 「能執無為 故能使衆為也」  
よくむいをとる ゆえによくしゅうをしてなさしむ

○芸術祭奨励賞

いい の さい しん  
飯 野 彩 心 (下野市) 「岑参詩」

けん もく げつ か  
見 目 月 華 (高根沢町) 「夢にても」

おお たけ き せん  
大 竹 汎 泉 (佐野市) 「題江貫道長江図」  
こうかんどうちょうこうのずにだいす

かめ わだ いく ほう  
亀和田 郁 芳 (宇都宮市) 「秦権量銘」  
しんけんりょうめい

こ ぼやし よう こ  
小 林 庸 子 (栃木市) 「雲濤煙浪」  
うんとうえんろう

せき や こ ゆき  
関 谷 小 雪 (大田原市) 「于武陵詩」  
うぶりょうし

そうとめ あき こ  
五月女 章 子 (宇都宮市) 「漸」  
ぜん

まつ もと す み よ  
松 本 純美代 (小山市) 「鮑照詩」  
ほうしょうし

わた なべ し ほう  
渡 邊 司 寶 (鹿沼市) 「龍の目覚め」  
りゅう め ざ

いわ かみ とも かず  
岩 上 智 和 (上三川町) 「陳恭尹詩」  
ちんきょういんし

○U25賞

ほし  
星 あいり (那須塩原市) 「溶々漾々白鷗飛」  
ようようようようほうおうとぶ

## 令和2年度第74回栃木県芸術祭美術展審査結果（写真部門）

○応募総数	354点	[ 334点]	
○入賞点数	13点	[ 13点]	
○入選点数	167点	[ 167点]	* [ ]内は昨年度

### （審査寸評）

今年は、ここ10年間で最多の354点の応募があった。様々なジャンルの作品は力作揃いで、応募された方々の熱意に感銘を受けた。撮影アイデア、技術、そしてプリントも完成度の高い作品が多く、審査には時間を要した。

その中で選ばれた作品は作者のメッセージがよく表現され、被写体との深い心の交流が感じられた。写真は現実の何かを撮影するが、そこに表現されたものには作者の意図が加わり、物語が作り出される。その物語はきっと見る人の心に届くだろう。今回はそういう作品を数多く拝見することができ、充実した審査会であった。

### ○芸術祭賞「老舗」

マルヨシという理容店の前に女性が座っている独特な雰囲気のある写真だ。この女性は理容店の店主かお客様か、撮影者との関係は判らないが、親しい人に違いない。ちょっとはにかんだような女性の表情がいい。店舗の味わい深い趣にも引き込まれた。柔らかな光線と渋い色のトーンが美しく、理容店と女性の深い物語が想像できる。

### ○準芸術祭賞「まごころを君に」

餌を食べているリスを手に乗せ、柔らかく包み込んでいる写真だ。

暗い背景処理で、優しげな手とリスを浮かび上がらせて、小さな命を大切に思う気持ちが表れている。タイトル通り、この手の人とリス、又は撮影者とリスの関係はとても強いのだろう。構成要素をシンプルにし、印象に残る写真となった。

### ○準芸術祭賞「台風19号の傷跡」

作者は“大水害の後の渡良瀬遊水地は広大な湿原が水没し、その後の瓦礫と廃船が痛々しかった”と作品にコメントしている。倒れている植物や廃船のシャープで強い描写、モノクロに近い色合い、中央の点を刺すような木、そして嵐の余韻を残す雲の表情など、緻密な絵作りが作者の意図をうまく表現している。

【入賞者名及び入賞作品名】

○芸術祭賞

せき ね まさ ゆき  
関 根 正 幸 (宇都宮市) 「老舗」

○準芸術祭賞

なか やま れい じ  
中 山 怜 児 (小山市) 「台風19号の傷跡」

うえ なか とし たか  
上 中 敏 隆 (宇都宮市) 「まごころを君に」

○芸術祭奨励賞

お ぼな ゆき こ  
尾 花 由紀子 (栃木市) 「ゆらぐ水面」

なか の いち ろう  
中 野 一 郎 (栃木市) 「乱舞」

ひら いし み の る  
平 石 實 (さくら市) 「深山の里」

こ ぼやし ほな え  
小 林 英 恵 (小山市) 「夕日の中で」

さ やま さち こ  
佐 山 幸 子 (足利市) 「冬の気配」

ほり い あき ひろ  
堀 井 昭 宏 (宇都宮市) 「出番前」

や こう み な こ  
矢古宇 美那子 (宇都宮市) 「夕照美人」

かわ た みどり  
川 田 みどり (宇都宮市) 「漲る」

いし かわ たけ お  
石 川 武 男 (真岡市) 「ストリート」

ばん たか お  
伴 崇 夫 (宇都宮市) 「閃光」

○U25賞

該当なし